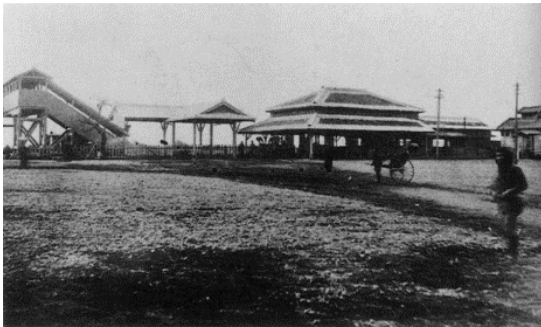


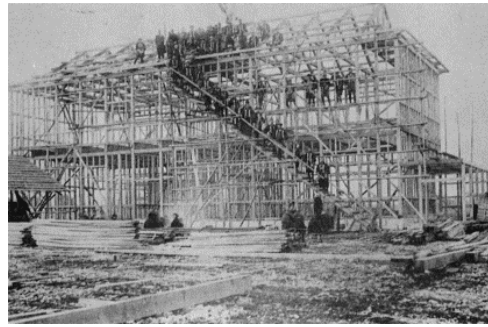
茨城県立結城第二高等学校 105年のあゆみ

大正2年から昭和5年まで＜創立から結城女学校まで＞

本校は、1913年（大正2年）5月1日に「結城町立女子技芸学校」として開校しました。場所は、結城西尋常高等小学校（現市役所の所にあった）内の3教室を使用しました。1925年（大正14年）9月「結城郡結城女学校」と校名が変更され、翌年に結城玉岡1925番地に専用校舎を新築移転しました。



▲本校生が利用した大正期の結城駅



▲大正15年 上棟式



▲結城郡結城女学校時代

昭和 6 年から昭和 23 年まで

＜結城実科高等女学校から結城高等女学校まで＞

昭和 6 年 4 月に、結城実科高等女学校になり修業年限は 1 年多くなり 4 年になりました。実科高等女学校昇格にともなって制服が作られました。セーラー服にスカート姿であり、靴も制定されましたが、従来通り和服の着用も認められたそうです。昭和 17 年 4 月、生徒や教職員、町民や関係者待望の茨城県立結城高等女学校が誕生しました。これにより教科内容も充実し上級学校へつながることになりました。しかし、太平洋戦争が始まり、学校生活は、戦争の影響を大きく受けることになりました。



▲最初の制服(昭和 7 年)



▲茨城県結城実科高等女学校時代



▲茨城県立結城高等女学校時代



▲昭和 17 年 特別教室新築完成

昭和 24 年から昭和 47 年まで

<茨城県立結城第二高等学校への校名変更・創立 40 周年を迎えて>

男女共学の実施に伴って、昭和 24 年 4 月 1 日校名は現在の「茨城県立結城第二高等学校」になりました。校訓には「健実」があげられ、男子生徒も在籍しましたが、男子の入学者は、昭和 29 年の 12 人を最後に途絶えました。昭和 24 年には家政科が設置されました。家政科は女子技芸学校の流れを汲むものであり、普通科は高等女学校の流れを受け継ぐものでした。昭和 28 年には創立 40 周年を迎え、その年の 11 月 14 日～16 日にかけて創立 40 周年記念文化祭が盛大に行われました。昭和 40 年 4 月、普通科が 1 学級増え 5 学級となりました。家政科 2 クラスとあわせ 21 学級が定着することになりました。



▲茨城県立結城第二高等学校旧本館



▲昭和 28 年 40 周年記念式典



▲昭和 34 年 体育の授業



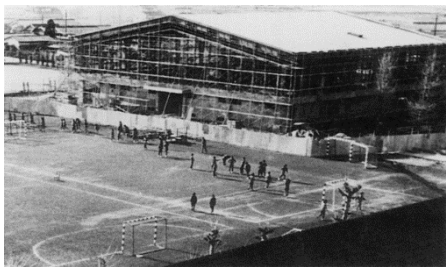
▲朝の結城駅前

昭和 48 年から昭和 63 年まで＜創立 60 周年を迎えて＞

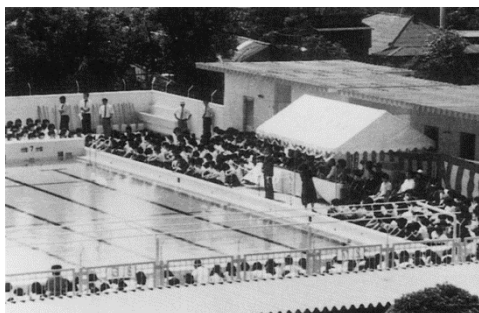
昭和 48 年の創立 60 周年にあわせて永久校舎の建設され完成しました。老朽化した体育館も昭和 53 年には体育館兼講堂が新築されました。昭和 56 年には永久校舎の南側に 4 階建ての特別教室棟が完成し、現在の結城二高の建物の基盤が出来上がりました。まさに、施設面での新旧交代の歳月でした。昭和 58 年には、本校創立 70 周年となり、式典の記念事業として PTA・同窓会の寄付による合宿所「すずかけ館」の新築がありました。



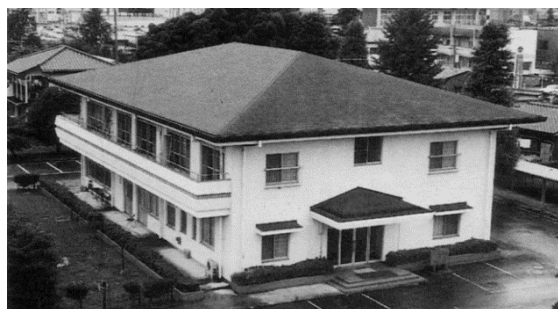
▲永久校舎 創立 60 周年記念文化祭



▲昭和 52 年 建設中の体育館



▲昭和 49 年 卒業記念で校章取付け



▲昭和 58 年 合宿所「すずかけ館」新築

◆昭和 57 年プール完成「プール開き」

平成元年から平成9年まで＜平成の始まりと80周年＞

平成元年に臨時学級増がなされ、この年定員1034名となり結城二高の歴史の中で最多生徒数になりました。その後急速な中学卒業生の減少，私学志向，職業科への希望者減などから，本学への入学志願者も減少していきました。そのような中で，平成5年には創立80周年を迎え，新しい制服が導入されました。



▲昭和31年～平成4年の制服



▲平成5年～平成16年の制服



平成20年度から＜結城フレックススクールへ＞

平成20年4月から，本校は，三部制・定時制・単位制の愛称「結城フレックススクール」として新しく生まれ変わりました。筑波大学副学長石隈利紀先生から考えていただいた「人とつながるオンリーワン・みんなが資源みんなで支援」を基調として生徒一人ひとりを大切に，様々な取り組みによる新しい学校づくりが始まりました。



▲フレックススクールになってからの歴代のポスター

茨城県立結城第二高等学校 校訓について 「健実」・「寛容」



健実とは、「心身ともに健やかで、誠実な姿勢」を意味する。(昭和 25. 4. 15 制定)
丈夫な身体を作り，事に当たって，まじめに根気強く，まごころをこめて取り組む態度が健実である。



寛容とは、「異なるものと共存共栄を図ろうとする姿勢」を意味する。(平成 23. 5. 29 制定)
本校同窓生多田富雄先生（世界的な免疫学者，東京大学名誉教授）のメッセージ「長い闇の向こうに何か希望が見えます。そこには寛容の世界が広がっています。」を，後世に伝えるため，また，本校の目指す学校像とも一致するため校訓に制定された。

茨城県立結城第二高等学校 校章の由来について



▲茨城県立結城高等女学校 校章



▲茨城県立結城第二高等学校 校章

左は，結城市で多く栽培されていた桑の葉を文字のバックにデザインしたものと考えられる。

右は，昭和 24 年 4 月，結城二高として新しくスタートしたときに制定された。文字のバックは雪の結晶をデザインしたもので「ゆうき」と「ゆき」のゴロ合わせと同時に，逆境に負けずに勉学に励んだ螢雪の故事(晋の車胤“しんのしゃいん”と孫康“そんこう”は貧乏で灯油が買えず，螢や雪の光で読書したという)を意味している。